資料2-3

# 一般財団法人
# 国際ユニヴァーサルデザイン協議会
# International Association for Universal Design

理事長　古瀬　敏
（静岡文化芸術大学名誉教授・工博）
（国立研究開発法人 建築研究所 客員研究員）

# 国際ユニヴァーサルデザイン協議会、IAUDとは

設立経緯：

2002年、横浜で国際ユニヴァーサルデザイン会議を開催

横浜での国際会議開催時には故寛仁親王殿下の尽力を得た

その際の支援企業を中心に、2003年に任意団体として協議会を設立

（総裁：故寛仁親王殿下）

企業が正会員、非営利団体が準会員、そして個人会員で構成

# IAUDの組織構成

2013年に一般財団法人として法人格を取得

それ以降、評議員に国内だけでなく海外の関係者も依頼して、国際的な視点を常に検証（英国、米国、スペイン、ドイツ、ノルウェイ）

# 主な活動1　国際会議開催

2002年 横浜「人間（ひと）のために、ひとりひとりのために」
2006年 京都「さりげなく、大胆に ー使い手と作り手の対話、実践そして実現ー」
2010年 浜松「人と地球の未来のために」
2012年 福岡「安全・安心～ユニヴァーサルデザインの基本を考える」
2014年 福島＋東京「ユニヴァーサルデザインのグローカル展開」
2016年 名古屋「ユニヴァーサルデザインによる共有価値の創造」
2019年 バンコク「ユニヴァーサルデザインによる持続可能な発展」
※2019年まで査読論文も募集して発表
※2020年～2023年 コロナ禍のため活動を制限された
2021年 オンライン「新型コロナウィルス感染防止のためのデザイン」
2027年 大和・奈良での開催を検討中

# 主な活動2　IAUD国際デザイン賞

2012年にIAUD国際デザイン賞を創設。世界各国のネットワークから選ばれた審査委員による審査で、優れた動きを大賞、金賞、銀賞、銅賞、学生デザインチャレンジ優秀賞、学生デザインチャレンジ賞のかたちで顕彰

受賞件数は、20件程度から60件程度で推移。これまでの受賞者の所属国は28か国に及んでいる。

表彰式の参加者からは、応募作品の質が高く感銘を受けたとのお声をいただいている。

以下に過去の受賞の例を示す。ちなみに2025年は42件を選定。2026年については現在審査中。

# 金賞
# パッケージデザイン部門

作品名：視覚障がい者へのアクセシビリティ対応「Guide for QR」：触覚誘導による情報アクセス支援

受賞者：ソニーグループ株式会社／ソニー株式会社：日本

視覚障害のあるユーザーが製品パッケージ上のQRコードを触覚で探せるようにする触覚デザイン



# 金賞
# ユニヴァーサルデザイン全般部門

作品名：　MY COLOR MY BEAUTY

受賞者：　資生堂クリエイティブ株式会社：日本

色覚異常を持つ個人と協働し、「美を問い直す」をテーマに、色覚多様性を体験できるメイクアップの手法を創出し提案。



# 金賞
# 未来への提案部門

作品名： WELL-VOYAGE SEAT
[ウェルボヤージュ・シート]

受賞者： 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構／トヨタ紡織株式会社：日本

取り外し可能な航空機座席で、車椅子としても機能し、機内や空港と航空機間の乗客移動をシームレスに行え、これにより、移乗支援を必要とする乗客とその介護者における移乗時の身体的負担を解消する。



# 大賞
# 公共空間デザイン部門

作品名： Hamaren Aktivitetspark (Hamaren Activity Park)

[ハマレン アクティビテイ パーク]

受賞者： Fyresdal kommune（フィレスダル・コムーン）：ノルウェー

この公園は、高齢者、子を持つ親世代、幼児、学校をはじめ、若者グループやスポーツ、リクリエーションの団体、地域の工事業者や企業などを巻き込んだ共創のプロセスを経て完成。

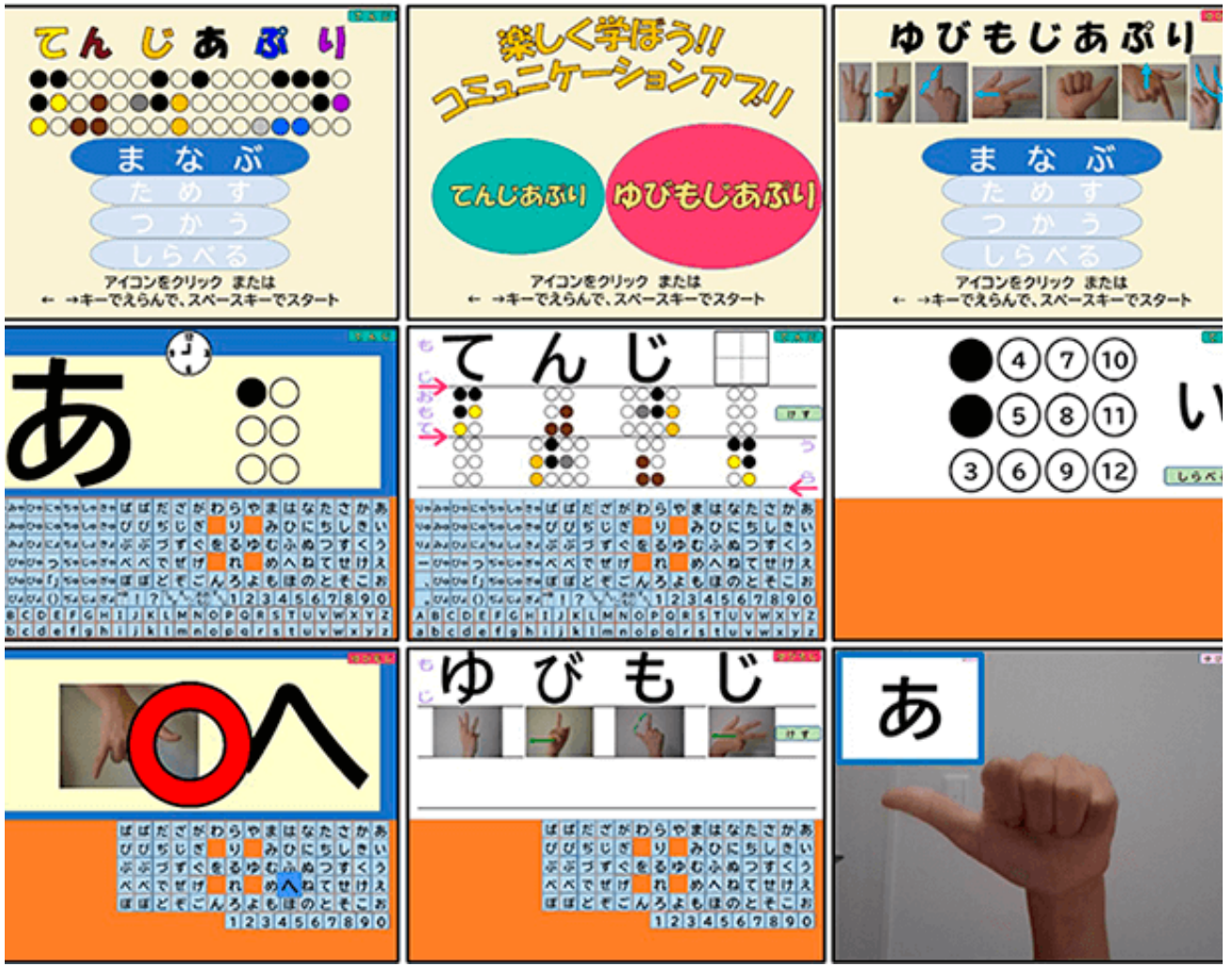


# 学生デザインチャレンジ優秀賞

作品名：　点字・指文字の理解を深めるアプリケーション

受賞者：　後藤　優奈：日本

ほとんどの人は点字や指文字を学ぶ機会が少なく、この方法でしかない人と十分にコミュニケーションをすることができないという問題に対処するため、点字と指文字を楽しく簡単に学べるアプリケーションを作成。



# 主な活動3　UD検定

UD検定実施中。当初は会場で行っていたが、現在はオンラインに
オンライン開催によって、場所や時間を問わず受講・受験が可能に

2026年9月時点で
初級：2012年～ 42回開催、合格者は総計1348名（17回目よりオンライン）
中級：2015年～ 28回開催、合格者は総計285名（11回目よりオンライン）
上級：2025年～　2回開催、合格者は総計5名

# 主な活動4　研究開発部会

会員がそれぞれの業務や業界を超えてUDの視点を意識しながらいろいろな問題を考え、答えを探したり、あるいは力を合わせることで積み残されている課題の解決策を提案したりする活動の場。

研究開発部会の一例：CM字幕プロジェクト

TV番組の字幕付与は進んでいるが、CMはスポンサーの意向などもあり、まだ30%程度に留まっている。それを広めようという努力を続けている。

# 主な活動5　国際UD研究講座

2023年10月より開始

IAUDにはUDに関する膨大な知識・経験が蓄積されている。それを次世代に伝えることを目的。

大学院レベル相当の講義と演習を組み合わせており、修了研究を行う。1年間かけて30コマを履修。

総論から専門分野の各論まで、IAUDの会員、それから海外の専門家を含めた講師陣を交え、さまざまなトピックについて学ぶ。

社会人の履修を想定し、当初は夕方に時間枠を設定。ただし、海外専門家のこともあり、今後はオンデマンドを併用予定。

使用言語は日本語か英語で自動翻訳を介在させる。

# IAUDのウェブは以下のとおり

https://www.iaud.net/

また、問い合わせは　info@iaud.net　まで